

新発田市有機農業産地づくり推進協議会（新潟県新発田市）

R4補正
R5当初

71

背景・課題

事務局を担う新発田市は、「住みよいまち日本一健康田園文化都市・しばた」を将来都市像に掲げるとともに、コロナ禍による米価下落対策等の観点から、有機JAS認証による農業振興に加え、「オーガニック」をキーワードに、商工業や観光業との連携によるブランドストーリーの構築を目指している。

成果目標

令和10年度までに

- 有機JAS認証面積（現状）0.5ha → 4.5ha
- 有機JAS認証者数（現状）2名 → 8名
- 有機JAS認証米輸出量（現状）1.8トン → 12トン

取組の内容

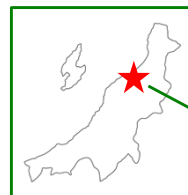
生産

令和4年度から「オーガニックSHIBATA（シバタ）プロジェクト（地域再生計画）」を始動し、「有機米の産地づくり」を進めており、①有機米による農業の高付加価値化、②輸出による明確な出口戦略、③地域おこし協力隊登用による担い手の確保によって、農家所得の向上と持続可能な農業の実現を目指す。

流通

消費

併せて、平成20年から進めている「食の循環によるまちづくり」における産業分野の具体的な取組として、商工業（健康志向の高まりを視野に入れた商品開発）や観光業（健康をテーマとしたヘルシーツーリズム）と農業（有機栽培の拡大）が連携し、「オーガニック」というキーワードで結び付けたビジネスモデルの構築を図る。



新発田市

構成員

農業者、JA、集出荷業者、加工業者、消費者、長岡技術科学大学、新潟県、新発田市

品目

水稻



地域おこし協力隊による田植作業の様子

取組時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月



有機栽培における課題である除草作業。アイガモの導入が難しい中山間地域では、チェーン除草や乗用型除草機による除草作業を実施。大学と連携し、より効果的なロボットの開発を進める。



農産物が確実に販売に結びつくよう、協議会が積極的に集荷し、輸出を行う業者との連携調整を行う。



新発田産オーガニック米として、海外の消費者の元へ。

普及に向けた取組

土壌データ等の分析や除草技術の試行、有機農業新規取組者の生産・経営分析調査を行い、成果を協議会が実施する検討会で情報共有するとともに、マニュアルに反映し、今後の有機農業の拡大に活用する。

担い手等の課題を抱える中山間地域を中心に取組を進め、成功事例を他の地域等へと広げる。これにより、当市農業の課題解決を図るとともに、持続可能な農業の実現につなげる。

問い合わせ先

新発田市農林水産課生産振興係 TEL：0254-33-3108